

熊大病院ニュース

第19号

Kumamoto University Hospital

熊本大学医学部附属病院 広報誌



特集1…………… P1～P2

嚥下機能の低下と 嚥下食について

新任役職者紹介…………… P3

水田博志 病院長 就任のご挨拶

イベント紹介…………… P3

知っ得! 納得! Q&A…………… P4

「緩和ケアセンター」 って何?

診療科・部門紹介…………… P5

*泌尿器科 *治験支援センター

看護部だより…………… P6

がんセンターのご紹介

総合案内…………… 裏表紙

熊本大学
医学部
附属病院

- 【理念】** 本院は、患者本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。
- 【基本方針】**
- ・患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
 - ・安全安心で質の高い医療サービスの提供
 - ・優れた医療人の育成
 - ・先進医療の開発と推進
- 【患者の権利】**
- ・良質な医療を受ける権利
 - ・十分な説明と情報提供を受ける権利
 - ・自分の意思で医療を選ぶ権利
 - ・プライバシーや個人情報が保護される権利
- 【患者の責務】**
- ・自分の健康状態について正確に伝える
 - ・本院の規則を遵守する
 - ・迷惑行為を行わない



ご自由に

お取りください

2015年 初夏号



病院敷地内全面禁煙のお知らせ

皆様のご理解とご協力をお願いします。

熊本大学医学部附属病院の建物内、敷地内（含む中庭、駐車場）および病院周辺の道路は全面禁煙です。喫煙を確認した場合は、来院者には退去勧告、入院患者さまには退院や転院を勧告いたします。禁煙へのご理解とご協力をお願いいたします。

看護師募集中

最先端の医療に携わってませんか?

育児休業復帰
支援プログラム
実施中です!

担当: 熊大病院 総務・人事ユニット 人事給与担当

☎ 096-373-5913





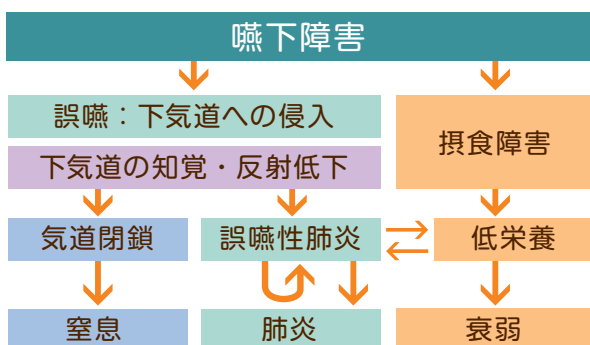
嚥下機能の低下と食について

【監修】熊本大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 湯本英二 教授、栄養管理部栄養管理室 猪原淑子 副部長

嚥下機能(食べる力)の低下が起こす問題点

ものを食べることは生きてゆく上で必要であると同時に生きる楽しみの一つでもあります。嚥下機能の低下(うまく呑み込めないこと、嚥下障害)が起こると、栄養を摂取できないだけでなく、飲食物が気管に入って肺炎を起こすことがあります。それも本人や家族が気付かないうちに誤嚥を繰り返すと(不顕性誤嚥と呼びます)肺炎が重症になって死亡する原因になります。

図01 嚥下障害とその転帰



このような嚥下障害を起こす原因疾患は脳梗塞、脳出血、慢性呼吸器疾患、神経あるいは筋疾患など多岐にわたり、多くは高齢者に起こりやすい病気です。平成23年以後、誤嚥性肺炎による死亡は悪性新生物(がん)、心疾患に次いで直接死因の第3位になりました。(※図02参照)

図02 主な死因別死亡数の割合

(平成25年推計値) 厚生労働省平成26年我が国の人口動態より

悪性新生物	365,000人
心疾患	197,000人
肺炎	124,000人
脳血管疾患	119,000人

本院では、平成26年4月に「嚥下障害診療センター」を組織し、各診療科・部門が協働して、患者様ごとに基礎疾患と嚥下障害の重症度・病態を把握し適切な診断治療方針を立てることを目指しています。

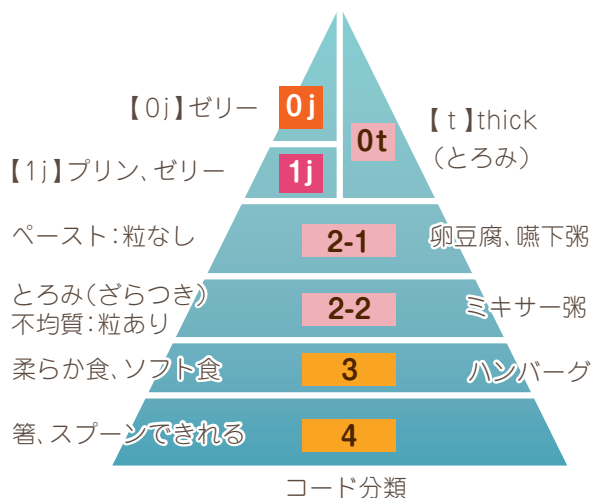
嚥下機能レベルに応じた食事基準



【写真】嚥下食の一例

嚥下障害に対して安全においしく食べるための食事形態の基準があります。嚥下調整食、もしくは嚥下食と呼ばれています。この食事はかたさ、口の中での付着具合、まとまり易さを考慮し嚥下機能と誤嚥や窒息のリスクに配慮された食事です。

図03 安全においしく食べるための食事形態の目安 嚥下調整食 学会・新基準2013



食事形態の目安を図03に示しています。この中で 0j Ot については脳梗塞など重度の症例に対する評価と訓練用として使用するもので1→2→3とステップアップしていきます。この基準があれば、どのレベルなら安全に食べられるかを把握した上で、どのような形態の食事を用意すればよいのかがわかります。

本院も平成27年4月からこの基準の則った嚥下調整食を提供しています。院内の嚥下障害に関わる医師やコ・メディカルの協力の下、患者様の転院先へ食事情報を的確に伝えるツールとしてご利用いただけます。

✓ 嚥下障害チェック表

- 肺炎と診断されたことがある
- やせてきた
- 物が飲み込みにくいと感じることがある
- 食事中にむせることがある
- お茶を飲む時にむせることがある
- 食事中や食後、それ以外の時にもどがゴロゴロすることがある
- のどに食べ物が残る感じがすることがある
- 食べるのが遅くなった
- 硬いものが食べにくくなった
- 口から食べ物がこぼれることがある
- 口の中に食べ物が残ることがある
- 食物や酸っぱい液が胃から のどに戻ってくる
- 胸に食べ物が残ったり、つまった感じがすることがある
- 夜、咳で寝られなかったり目覚めることがある
- 声がかすれてきた (がらがら声、かすれ声など)

嚥下障害が気になる方は
かかりつけの病院で
ご相談下さい。





熊本大学医学部附属病院長 水田 博志

皆様には、日頃より、熊本大学医学部附属病院をご支援いただいておりますことに、心から御礼申し上げます。この度、平成27年4月1日より病院長に就任し、これから二年間、病院の管理運営を担うことになりました。

本院は熊本県で唯一の特定機能病院として、また地域医療の最後の砦として、難治性疾患の治療や臓器移植をはじめとする高度な医療の実践を進めています。専門的知識・技能と高い倫理観を備えた優れた医療人の育成と、次世代の医療を切り拓く先進医療の開発・推進にも力を注いでいます。今後も引き続き診療機能の向上に努め日進月歩で進む最先端の医療を追求してまいります。また、超高齢化社会に対応した医療提供体制を踏まえ、地域医療機関との連携強化と病院機能の分化をさらに推し進めていきたいと考えています。

患者様に最良の医療を提供し心の安らぎと癒しを与える病院、地域に貢献できる病院を目指して更なる努力を続けてまいります。今後とも、地域に根ざした大学病院として、本院に対するご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

みずた・ひろし 1978年 熊本大学医学部卒。1984年 同大学医学研究科終了後、同附属病院整形外科助手に採用。2005年 同大学院医学薬学研究部運動骨格病態学分野教授に昇任。同附属病院整形外科科長も兼任し、現在に至る。専門分野は、膝関節外科、スポーツ外傷・障害、軟骨再生。

🍀 イベント紹介

院内で行われたイベント等の情報をご紹介します。



【写真】教職員から教科書を受け取る生徒

平成27年度 院内学級開級式を開催

2015年4月13日(月)午前10時より、院内学級開級式が熊本大学医学部附属病院(小学校院内教室:東病棟12階)にて開催されました。開級式では、教職員の自己紹介や、院内学級についての説明等が行われました。

ホスピタルアートの展示物をリニューアル

熊本大学教育学部美術科の学生が描いた絵画を外来から病棟へ向かう中央診療棟の廊下に展示している”ホスピタルアート”。2015年3月23日に展示物をリニューアルしました。多数の新作をぜひお楽しみください。



【写真】熊本大学 教育学部 美術科の学生達と谷原秀信前病院長



「緩和ケアセンター」って何?

本院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、平成26年9月に緩和ケアセンターを設置しました。がんと診断されたときから緩和ケア医療を提供できる院内体制の整備や、緩和ケアに従事する人材を育成するとともに、県内全域の緩和ケア普及・啓発を行うためのネットワークの構築など、熊本県の緩和ケア体制を充実させることを目的として活動しています。



【写真】第10回熊本緩和ケアカンファレンス「心まで満たされる食を叶えたい～管理栄養士の存在価値～」開催の様子。

緩和ケアセンターの 役割とは何ですか?

県内の緩和ケア医療を充実させるため、緩和ケアの医学・看護教育や、各地域の医療機関との連携・協力・情報交換を行います。活動内容の一例として、県内医療関係者を対象とした、熊本県がん診療連携協議会共催「熊本緩和ケアカンファレンス」を4月に開催し、「心まで満たされる食を叶えたい～管理栄養士の存在価値～」をテーマに県内の医療機関と情報共有を行いました。本カンファレンスは毎月県内のがん診療連携拠点病院において開催しており、開催予定を、熊本県や本院ホームページにてお知らせしています。

Q 『緩和ケア』って何ですか?

「重い病を抱える患者様やそのご家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」です。また、緩和ケアには病気の種類や進行度は関係ありません。本院の緩和ケアチームには、皆様一人一人の価値観やご希望に幅広く対応するために、医師の他にも多数の専門職が携わっています。身体の様々な苦痛の軽減、不安感などの精神的な苦痛へのケア、検査・治療後の在宅療養に関する相談支援やご家族のためのカウンセリングなども行っています。

緩和ケアについてのお話を 聞ける場所がありますか?

緩和ケアセンターへ電話やメールにてお問合せ下さい。(※1) 外来診療棟2階にある同センターには緩和ケアに関する冊子などもご用意していますので、ご来院の際には、お気軽にお立ち寄り下さい。また、市民公開講座を7月4日(土)に市民会館にて開催します。(※参加費無料)日本緩和医療学会理事長による緩和ケアの講演の他、本院の神経精神科医師やがん病態栄養専門管理栄養士の講演を予定しています。参加をご希望される場合は、本院ホームページをご覧の上、お申込み下さい。

【※1】 緩和ケアセンターへのお問い合わせ先
電話 096-373-5637 (受付時間/月～金 8:30～17:15
※祝日・振替休日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く)
e-mail kanwa@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

泌尿器科



△江藤正俊教授

当科では最新の手術機器を取りそろえており、腎・尿路と男性生殖器の悪性腫瘍を中心に、手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法・分子標的治療を組み合わせ、最新かつ最善の集学的治療を行っています。

特に患者様のQOL(Quality of Life = 生命と生活の質)を重視し、低侵襲治療である腹腔鏡手術や内視鏡手術を積極的に取り入れ、前立腺癌治療に対してはダヴィンチ(手術支援ロボット)手術を精力的に行っています。ダヴィンチ手術は、現在、腎腫瘍に対する腎部分切除術に対しても自費診療として適応範囲を拡げています。その他にも、副腎腫瘍(内分泌疾患)や前立腺肥大症、腹圧性尿失禁や小児の停留精巣に対する外科的治療も行っています。尿路結石症の治療では、最新の結石破碎装置と内視鏡(レーザー)治療とを組み合わせながら、あらゆる結石に対応しています。また、人工透析療法をはじめ、腎移植なども積極的に行っています。

治験支援センター

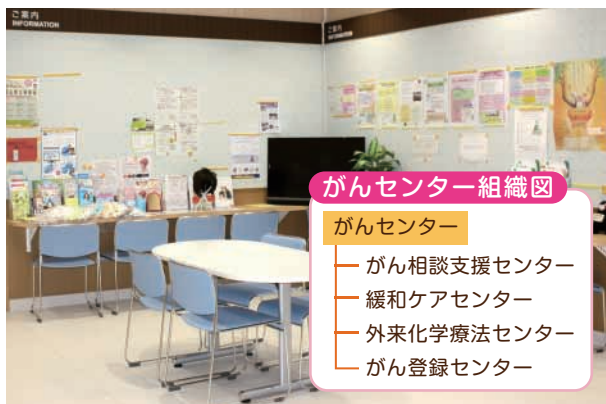


治験とは病気の治療に欠かせないお薬や治療法を開発するため患者様にご参加いただく臨床試験のことです。治験を実施するには医療設備や医療スタッフの充実など国が定めた要件

を満たしていることが必要です。そこで治験を円滑に行うために治験支援センターは平成11年4月に開設されました。ここでは製薬会社などが依頼する治験が有効で安全に行えるか、事前に医師や医療スタッフと確認します。そして治験の内容を審査する委員会で承認された後に開始されます。このような院内での調整や製薬会社との対応を行います。また所属する治験コーディネーターは治験に参加いただいた患者様が安全に実施できるように、医師や院内各部署と連携をとっています。外来診療棟2階には治験に参加されている患者様専用の診察室なども整備されました。センターはこれからも本院での安全で有効なお薬の開発を支援していきます。



がんセンターのご紹介



【写真】がんセンター（外来診療棟1階）

本院は平成18年に都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けて、がんセンターが設置されました。がんセンターには、外来化学療法センター、がん相談支援センター、緩和ケアセンター、がん登録センターがあります。今年度は、がんセンターに、がん看護専門看護師およびがん関連認定看護師（緩和ケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護）4名、専従のソーシャルワーカー3名を配置して、チーム医療の充実と役割拡大に取り組んでいます。

緩和ケアセンターは、本院の医師、看護師から依頼を受けて外来・入院のがん患者様とご家族を対象に、身体面・精神面・社会面・スピリチュアルな面などさまざまな苦痛を緩和するために緩和ケアチームとして活動しています。

がん相談支援センターは、がんと診断された時に最初に来てもらいたい場所です。患者様やご家族だけでなく、困った時にどなたでも無料で利用できる『がんの相談窓口』で面談や電話での相談に対応しています。相談例として、がんの検査や治療と副作用について知りたい、病気について不安や気分のおちこみがある、経済的負担や支援制度を知りたい、病気を抱えながら仕事や学校生活の過ごし方を獲得したい、医療者とのコミュニケーション方法、緩和ケアについて知りたいなどがあります。また、「若者がん相談」も定期的に開催しております。いずれも予約なしで、がん相談支援センターで直接受付しております。

がんセンターの4人の専門看護師・認定看護師は多職種と協働して本院全体を横断的に活動しています。がん患者様とご家族に、これまで以上にご活用していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。



若者がん相談 予約不要

日時：毎週金曜日 10時～12時
場所：外来棟1階 がん相談支援センター横の相談室1
内容：仕事と治療の両立、仕事復帰のタイミング、これからどんな仕事を始めると良いか、結婚や出産のこと等

がん相談支援センター

☎ 096-373-5676

（受付時間/月～金 8:30～17:15 ※祝日・振替休日・年末年始〈12月29日～1月3日〉を除く）

